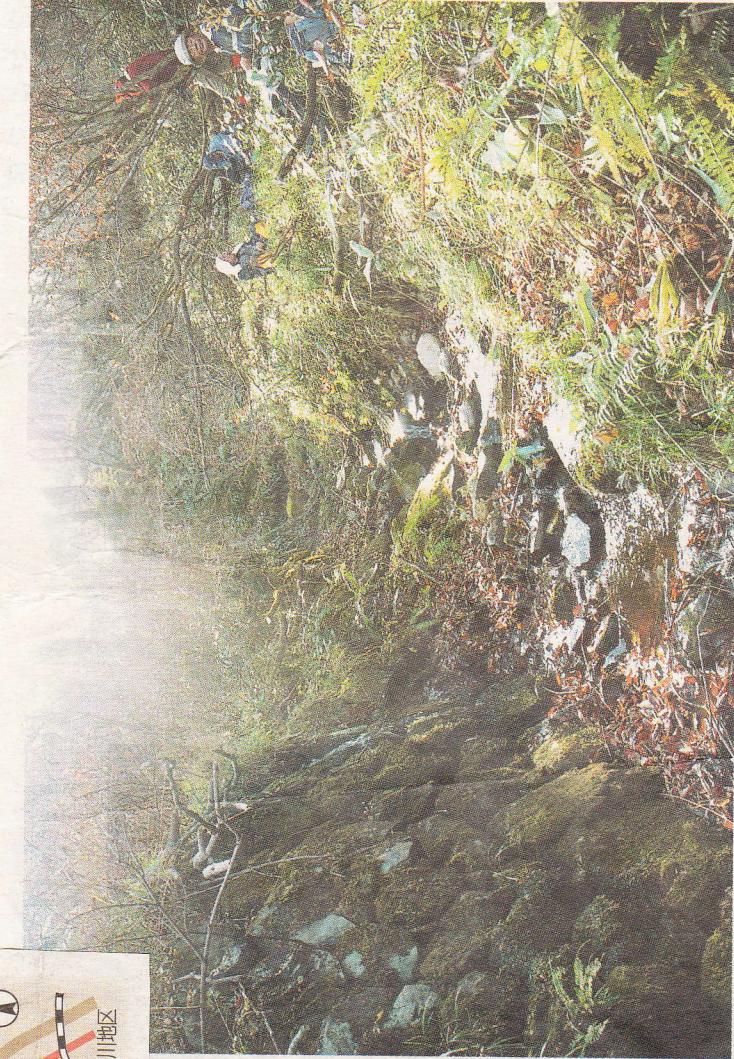
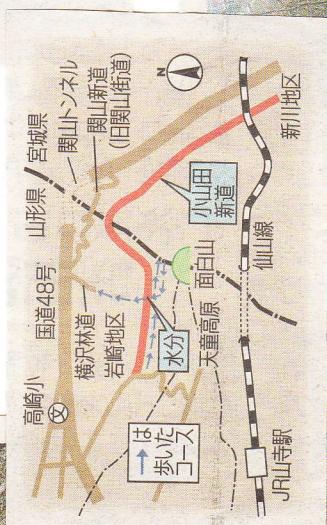


色付く木々を見ながらゆったりと歩ける道幅の広い場所もあった



当時は橋が架かっていたとみられる沢。左側に石積みの構造物が今でも残っている。



行く手を阻む倒木。みんなで乗り越えながら前進した

新道建設当時に建てられたといふ宿泊施設の跡地。昭和30年ころまで建っていたといふ

**又** 小山田新道は東根市猪川野沢の岩崎地区と仙台市青葉区新川地区を結ぶ30キロ弱の道で、1877(明治10)年に完成。地元で大庄屋を務めていた小山田家の10代当主小山田正貞が私財を投じ、整備した。1882(明治15)年、このルートが完成したため、次第に利用されなくなつたが、昭和30年代後半までは木材などを運ぶ生活道路として使われた。現在の国道48号は関山新道よりさうに北側を通り、いわゆる。